

題材名

1年「はをへをつかおう～かぞくへのメッセージ～ 「書く」

小林 尚子

1 身に付けさせたい力を習得できたか

- 誤りのある文章から間違いを見付ける活動を通して、助詞のはをへの正しい使い方を理解し、簡単な文を書くことができる。



本時の身に付けさせたい力として設定した、「誤りのある文章から間違いを見付ける活動を通して、助詞のはをへの正しい使い方を理解し、簡単な文を書くことができる。」は、22人中22人が獲得した。したがって設定した身に付けさせたい力は、概ね達成できた。

導入では、「いっちゃん」(マスコット)を登場させて、誤りのある文章を提示した。そこで、子どもたちは、「わが違う」「『わおえ』がみんな違う」など、気付いたことを意欲的に話し合った。そして、自分たちもこの文章のような間違いをすることを確認し、正しい文章の書き方を知りたいという願いをもたせることができた。実際は、子どもたちから「はをへは、どんなときにつかうのかな」という問い・願いが出された。

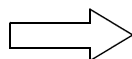
2 かかり合いで考えの広がりや深まりがあったか

本時では、次のようなかかり合いを構想した。

☆このような子どもに

- A すべて助詞の「はをへ」の誤りを指摘でき、すべて正しい使い方が分かる。
- B いくつかの助詞の「はをへ」の誤りを指摘でき、使い方が分かる。
- C 助詞の「はをへ」の誤りを指摘したり文を書いたりできない。

かかり合い



☆このような姿になるだろう

- A 助詞「はをへ」をより意識して文の中で正しく使ったり、友達に教えたりできる。
- B 助詞「はをへ」の正しい使い方を知り、文の中で使うことができる。
- C 友達の考えを聞いて、助詞「はをへ」の使い方を知り、文を書くことができる。

誤りのある文章から間違いを見付け、ペアや全体で話し合わせた。

<C児の変容から>

C児は、文章の間違いを直す際に、自分の考えに自信がもてず、ペアのA1児のプリントを見て写していた。しかし、ペアでの話し合いでは、次のような発言をし、A1児に伝えた。

C児：ぼくわのわが2つあります。違うのは、全部で4個です。

また、その後の全体での話し合いでは、教師の「友達の発言につなげていえますか」の言葉掛けで次のような発言をした。

B児：②の文のおがどちらも違うと思います。(あさがおのお、つるおのお)

C児：Bさんは、どっちも違うと言っていましたよね。ぼくは、ちょっと違ってつるおのおだと思います。

A2児：つるおのおは、くつつきのをを使うと思います。

A3児：ぼくもこう思います。あさがおのおは、くつつきのをにしなくていいと思います。

その後の文作りでは、自分の写真を見てC児は、次のように記している。

<文作り>

ぼくは、なかにわでさつまいものみずやりをしていました。

<振り返り>

きょうは、はをへをどんなときにつかうかをべんきょうしました。はをへは、うえのじにくつつくことをべんきょうしました。… (以下省略)

C児は、「はをへ」の使い方を理解し、自分の文作りや振り返りに生かすことができたと言える。

このようなC児の姿から、ペアや全体でのかかわりは、考えを広げたり深めたりすることに有効であったと言える。

<その他のかかわりのよい姿>

○「聞いて」「なあに」「そうだね」「そうだと思うよ」など何を聞くか、聞いてほしいことなどを反応しながら聞き合っていた。

○プリントを持って指でさしながら説明していた。

○前の友達の発言を受けて、友達の名前を言いながらつなげて発言していた。

<改善点>

●くつつくことを意識させるために、ブロックなど視覚的に表示するとよい。

●ペアによっては、聞かせるだけでなく、プリントなどを見せることが大切であった。

●◎まとめ「はをへはうえのことばにくつつくときにつかう」であれば、教師は「はをへはどこに使うの」ではなく、「どんな時に使うの」が良かった。

書くこと・その他有効であると思われたこと

○長い文章が詳しく書けていた。写真を見ることで、文をたくさん作ることができた。

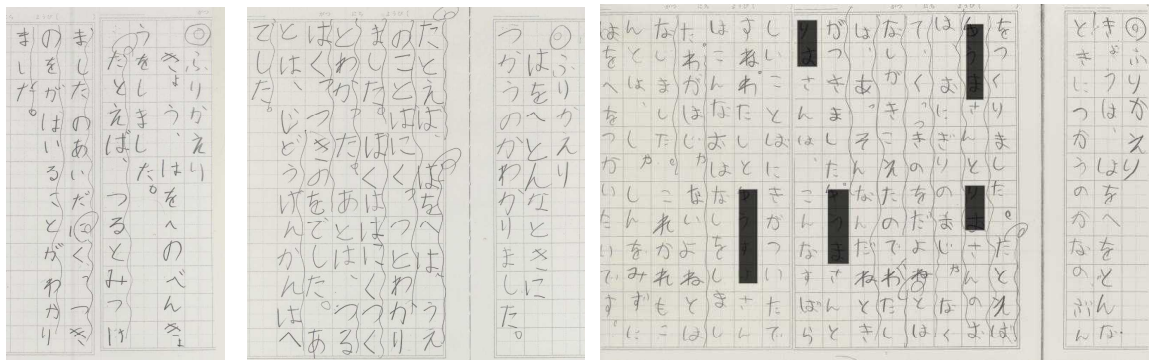
<子どもの作った文1>

- ①ぼくは、りかしつへいきました。
- ②りかしつでまるぞこふらすこをみつけました。
- ③まるぞこふらすこをおしえました。

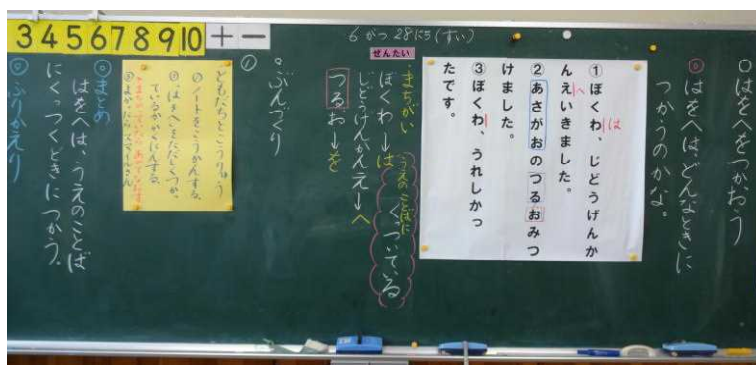
<子どもの作った文2>

- ①わたしは、さくらへいく。(＊さくらは、さくら組)
- ②わたしは、ほしをかく。
- ③わたしは、きいろのいろでかく。
- ④わたしは、ほしをちょうくでかく。
- ⑤わたしは、ほしのいろをぬる。
- ⑥わたしは、こくばんにえをかく。

○振り返りで、「例えば…」「今日分かったことは…」など、記述の仕方が良かった。



<本時の板書>



<自分のノートを持って交流>

